

アニマルランド

NEWS

かのう
和の森わんぱくこうちアニマルランド
№110 Oct 2026

- 企画展を振り返って
- ショウジョウトキの子育てお手伝い作戦
～5年間の試行錯誤を経て～
- 新人飼育員からのご挨拶
- アニマルランドに貢献してくれた仲間たち

4/5 わんぱーくこうちまつりでクイズ大会開催
 4/13 高病原性鳥インフルエンザ対策解除
 4/29 第27回カブトムシの飼い方教室開催
 5/2～5/6 アビシニアコロブス♀名前投票
 5/11 マントヒヒ♂「シーマ」死亡
 5/26 ホンドテン♂「テンテン」死亡
 6/7 サーバル♂「バズ」死亡
 7/7、7/11 ヨーロッパフラミンゴふ化
 7/12 第10回カブトムシすもう大会開催
 7/16 ホンドテン♂「ウナギ」展示開始
 7/19 移動水族館開催
 7/28 サマースクール開催
 8/6～9/15 夏の企画展「見～つけた！わんぱーくの生き物たち」開催
 8/16 グラントシマウマ♂「ペレット」死亡
 9/13 移動動物園開催
 9/17～ 動物紹介「知ってる！？ニホンカモシカ」開催
 9/21 敬老イベント開催

4月から9月

わんぱーくこうちまつり
クイズ大会



快晴の中、たくさんの子ども
たちが参加してくれました。

カブトムシ
飼い方教室



第27回カブトムシ飼い方教室を行いました。
たくさんの方が参加してくれました。

アビシニアコロブス♀
名前投票



投票の結果、「ルル」に決定しました。生息
地である東アフリカの言語(スワヒリ語)で、
「真珠」・「貴重なもの」という意味です。

カブトムシ
すもう大会



移動水族館



暑い中、多くの熱戦が繰り広げられ、大いに
盛り上がりました。

足摺海洋館「SATOUMI」との交流イベント
で、海のいきものにふれあってもらいました。

のできごと

サマースクール



夏の企画展



「わんぱーくの生き物たち」と題して、夏の企画展を開催しました。生体やサマースクールで子どもたちが作成したいきものカードの展示もしました。

飼育体験や園内いきもの調査を行いました。子どもたちは元気に楽しんでいました。

動物紹介



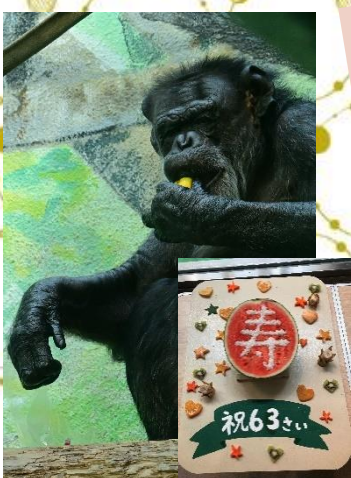
移動動物園



足摺海洋館「SATOUMI」との交流イベントで、アニマルランドの動物にふれあってもらいました。

敬老イベント

祝19歳



新たな仲間たち



ジャガー♂「ルモ」とチンパンジー♂「タロー」に好物のプレゼントをしました。

ホンドテン♂「ウナギ」

ヨーロッパフラミンゴのヒナ2羽

企画展を振り返って

今年の夏の企画展は、「見つけた！わんぱく一の生き物たち」と題し、公園内で確認できた動物たちを紹介しました。

今回の企画展のきっかけは、何気ない会話から始まりました。

「今年はメジロを見てないね。」確かに、園内のビワやツバキの花に訪れる姿が見られませんでした。思い返すと、アニマルギャラリーの壁に張り付いているカタツムリ、頻繁に確認できていたカナヘビなど、近年確認できなくなった生き物がいることに改めて気づきました。ほかにも、なぜかスズメが極端に少ない年があったり、ミツバチがほとんど確認できない年があったりと、数え上げればきりがありません。このような気づきから、過去に何度か行った公園内の生物調査を、改めて実施しようと思いました。

公園内の生物調査は不定期ではありますが継続して行っています。過去の調査では、改めて目を向けることでさまざまな生き物の存在に気づき、人工的な環境に適応している生き物たちに驚かされてきました。しかし今回はこれまでとは異なり、明らかに確認種数が減っているのではないかという疑問からの始まりです。わんぱく一こうち内という限られた範囲での動物調べではありますが、今回の企画展を通して、多くの方々に身近な環境へ目を向けるきっかけをつくることを目的に開催しました。

企画展の開催に先立ち、今年7月28日に実施したサマースクールでは、今回の企画展の目的に合わせ、参加した児童たちと一緒に公園内の生き物調べを行いました。内容の軸は、「正しい名前を知ること」と「よく観察すること」の2点に絞りました。

捕獲対象種は、子どもたちが見つけやすく、比較的安全な生き物を中心にしました。捕獲が困難な生き物は、撮影して記録を取るようにしました。参加児童に行ってもらう作業は、まず生き物を見つけて捕獲すること、そしてスケッチを行い、いきものカードを作成することです。また、カダヤシやアカミミガメなどの特定外来生物は、捕獲対象から外しました。まず、参加児童が4つの班に分かれ、各班の担当者とともに公園内を散策し、それぞれが捕獲を行いました。

参加児童たちが最初に捕獲したのは、アブラゼミとクマゼミでした。よく鳴くため存在も分かりやすく、体も大きいので見つけやすいのですが、捕獲はなかなかうまくいきませんでした。わんぱく一こうちでは、夏休み期間に入ると、時折セミ取りに来ている子どもたちを見かけることがあります。そのためか里山などのセミよりも少し警戒心が強いようで、子どもの身長で届く場所にいっても、すぐに高いところへ逃げてしまいます。何より、多くの参加児童からは虫取りの経験の少なさが感じられ、子どもたちの自然離れの深刻さを痛感しました。セミたちが高いところへ移動してしまうと、子どもたちはお手上げでした。生き物の見つけ方が分からない参加児童たちは、虫取り網を肩にかけてうろうろし始めました。こちらとしては、ここからが本番です。いろいろな場所に生き物がいることを、一緒に確認していききました。



いきもの探し(サマースクール)



いきもの調べ(サマースクール)

池の方に目を移すと、何もしなくても水中にスジエビやコイが見られ、水面にはアメンボ、アカミミガメは泳ぎながら顔を出していました。水底ではマドジョウが確認できました。公園南の芝生広場では、ただ歩いて移動するだけでカメムシやトンボ類、バッタ類が飛び出して移動を始め、足元ではカマキリがこちらを見て威嚇（いかく）していました。大きな樹木が植えられている場所では、さらに多くの生き物が確認できました。

木と木の間にはクモ類が巣を張り、足元の落ち葉をはぐるとダンゴムシやワラジムシ、土を少し掘り返すとミミズやカナブンの幼虫を見ることができました。頭上に覆いかぶさる樹木の葉の裏にはセトウチマイマイなども見られ、観察しているすぐ脇（わき）を同定困難（どうていこんなん）な小さなカニが慌てて逃げていきました。子どもたちはさまざまな生き物に興味を示し、いきものカードを作る際には名前調べに夢中になっていました。今回の参加児童たちには、いきものカード作成が本当の目的ではないことに気づいてもらえたようで、サマースクールとしては目的を十分に達成できたのではないかと思います。今回の企画展の目的は、詳細（しょうさい）なデータを出すのではなく、身近な環境に目を向けるきっかけとなるものを提示することです。そのため企画展の主軸（しゅじく）は、サマースクールで参加児童たちが作成したいいきものカードにしました。

その他に、確認できた生き物の一部を3個の水槽を使って展示しました。1つ目は、水中の生き物の生体展示です。ティラピアは、大きさの異なる個体を一緒に入れるとけんかをしてしまう、スジエビはティラピアに食べられてしまう、マドジョウはすぐに砂利の下へ隠れてしまうなど、展示には苦労しました。2つ目は、地表面で見られる動物の展示です。セトウチマイマイやウスカワマイマイ、アカテガニやオカダンゴムシ、ツチガエルなどを展示しました。この2つ目の水槽にいる動物たちは、強い光を当てると隠れてしまうものばかりで、光の調整に苦労しました。3つ目は、標本を使ったジオラマ風展示です。子どもたちに人気のセミ類やカブトムシ、キマダラカメムシなどを展示しました。

最後に過去との比較として、今回確認できなかった動物を「見つけることが困難になった動物」として紹介しました。これは、13年前に行った公園内の生物調査では確認されていた動物たちです。公園内の生物調査は毎回調査方法が異なり、調査期間にもばらつきがあるため、正確に比較できるものではありません。しかし、環境変化に気づくための記録としては十分意義があると紹介しました。

当たり前だと思っている環境は、知らず知らずのうちに変化しています。山は削られ、田畑はマンションに代わり、草原は駐車場に変わって、見慣れたはずの風景は確実に変化しています。その小さな変化が広がることで、日々報道されるような状況を引き起こす一因となっていることは言うまでもありません。今回の企画展が、何らかの気づきにつながれば幸いです。

（山崎 博継）



企画展全景



見つけることが
困難になった動物（写真）



いきものカード



ジオラマ風展示



ショウジョウトキの子育てお手伝い作戦

～5年間の試行錯誤を経て～



アニマルランドニュースNo. 100 (2021年) で「ショウジョウトキの子育てお手伝い作戦」について紹介しました。当時は初めての初期人工育雛で、試行錯誤しながらの取り組みでした。あれから5年、毎年の繁殖を通して経験を積み重ね、少しずつ方法を確立できるようになりました。初期人工育雛とは、人工的に卵を孵化させたヒナを約10日間人の手で育てた後、親鳥のもとへ戻す取り組みです。ショウジョウトキは繁殖期に10～15個ほどの卵を産みますが、孵化までたどり着かなかったり、孵化しても数日で死亡したりすることがあります。人の手で育てることはできますが、私たちが目指しているのは、できるだけ親鳥に育ててもらうこと。そのため、ヒナをある程度まで人の手で育て、受け入れてくれそうな親鳥を見極めて巣へ戻します。実は、この「親鳥に返す日」が担当者にとって一番緊張する瞬間です。「受け入れてくれるだろうか」とドキドキしながら見守り、親鳥がヒナに寄り添ってくれた瞬間は、大きな安堵と喜びがあります。今年は2羽（ヒナ①、ヒナ②）を無事に親鳥へ返すことができ、現在も元気に成長しています。特にヒナ②は甘えん坊で、ヒナ①が15日齢で巣から出たのに対し、ヒナ②は37日齢で巣から出ました。野生では14日齢ほどで巣立つとされているため、かなりのんびり屋さんです。5年間の試行錯誤を通して、ヒナを戻すタイミングや親鳥の選び方など、少しずつ分かってきたことがあります。それでも一羽一羽に個性があり、毎年新しい発見があります。親鳥の行動を観察しながら、ヒナの成長に合わせて判断することの大切さも学びました。人が育てることだけを成功とせず、親鳥による子育てにつなげることを大切に、今後でもできるだけ多くのヒナが親鳥のもとで元気に育つよう、観察と工夫を重ねていきたいと思います。

(門谷真奈)



新人飼育員からのご挨拶

2026年4月からわんぱくこうちアニマルランドで飼育員として働いています、矢野宏太郎です。

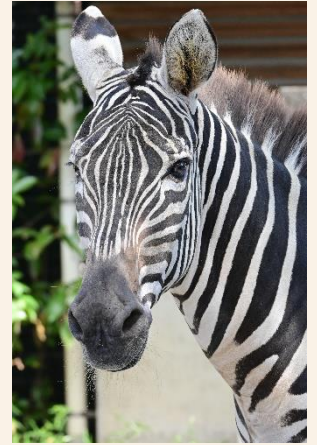
アニマルランドに来るまでは専門学校に2年間通っていました。まさか自分が動物園の飼育員になるとは、到底思ってもいませんでした。配属が決まったときは、動物を飼った経験すら無い自分に飼育員が務まるのか、とても不安でした。しかし、先輩方が一から丁寧に教えてくださり、少しずつ飼育作業にも慣れてきました。4月から7月までは猛獣やヤマアラシの担当で、現在はクマ・インコ・保護された動物の担当をしています。猛獣担当になると知らされたときは、「まじか...」という驚きの気持ちが強かったです。最初はトラのアバディに毎日驚かされ、扱いにとっても苦労しました。しかし、動物たちはすぐに私に慣れてくれて、それぞれの行動や性格なども、日を追うごとに分かるようになりました。猛獣たちの世話をしてきた経験は、担当が代わってからも様々な場面で役立っています。動物の知識はまだですが、一人前と認めてもらえるよう、奮闘中です！

最後に私のお気に入り動物を紹介します。スマトラトラのアバディです。まだ2歳ですが、最近は顔つきが前よりも凛々しくなりました。職員が展示場の前を通りかかるたびに、遊んでほしそうに追いかけてきます。スマトラトラは日本の動物園でもかなり個体数が少なく、とても希少な種です。アバディはよく展示場の隅に隠れているので、ぜひ探してみてくださいはいかがでしょうか。(矢野 宏太郎)



アニマルランドに貢献してくれた仲間たち

彼のことはいつも本名のペレットではなく、ペレと呼んでいましたので、ここでもそうします。ペレは長野県ちやうすやまの茶臼山動物園で生まれ、秋田県の大森山動物園で2年を過ごし、縁あってアニマルランドにやってきました。当時飼育していたメスのランが、さわるができるくらい人懐っこいシマウマだったのと対照に、ペレは人を容易に近づけない神経質で暴れん坊な、シマウマらしいシマウマでした。ランとその娘のキキがいなくなった後、ヒーヒーヒーヒーとメスを呼ぶ声がまだ耳に残っています。年をとり、足の調子がいまいちだな、食欲が落ちてきたなと感じていましたが、こんなに急にお別れすることになるなんて。ラン、キキと一緒に安らかにお休みください。
(吉澤 未来)



1994年11月3日、シーマは生まれました。生まれたばかりのシーマは全身真っ白で、珍しいアルビノとして全国から注目を集めました。2020年には、その体色についての研究が国際学術誌に発表されるなど、シーマは多くの人の記憶に残るマントヒヒでした。若いころは、メスをいじめたり、ガラスに体当たりしたりと、元気いっぱいなつかの暴れん坊。担当者を困らせることもありましたが、それも今となっては懐かしい思い出です。晩年まで元気な姿を見せてくれ、まだまだ一緒に過ごせると思っていました。突然の別れは寂しくてなりません。生まれた時と最期を担当できたことに、不思議な縁を感じています。長い間、たくさんの思い出をありがとう、シーマ。
(久川 智恵美)

「バズ、今日も点滴てんてきがんばろうね！」サーバルのバズにこの言葉をかけたのは何回あったでしょうか。ネコ科に多い腎不全じんふぜんを若くして発症し、闘病生活が長かったバズ。治療をしていた獣医師としては、少しでも長く生きてもらいたくて、しんどい思いをさせたかもしれない…とふり返ることもあります。でも応援してくれた方々にお伝えしたいのは、バズは本当にがんばっていたということ。点滴後は少し肉を食べてくれたり、近づいたらまた来たか…と言わんばかりにシャア～！と言われたけど、治療に協力的でしたね。少しツンデレなバズはみんなに愛され、よい環境で過ごしてほしいという私たちの願いに、精一杯応えてくれました。共に過ごした時間は忘れません。
(井上 春奈)



アムロ♂12歳、レイ♀12歳、テンテン♂14歳が死亡しました。3頭共高齢になってもとても可愛い顔立ちでしたが性格は全く違っていました。アムロはおっとりしており、お客さんに見られていてもヘソ天で眠っている姿は、「本当に夜行性なの？」と思わずにはいられませんでした。レイは警戒心けいかいしんが強く、アムロがボテボテ動くのに対し、とても俊敏しゅんびんに動き回りました。それでも落ち葉ベッド付きのヤシの木巣箱でまったりくつろぐ姿は「かわいい～」の声しかでないほどでした。最後にテンテン♂、バックヤードで過ごすことがほとんどでしたが、とっても甘えん坊で飼育員にブラッシングしてもらうのが大好きでした。テンの可愛さかわいをたくさん教えてくれてありがとう。
(門谷 真奈)

園内おすすめスポット



ふれあい広場の東側に設置している「ニンゲンのおり」。
多くの方が楽しそうに写真を撮影している場所です。
来園の記念に、写真撮影をしてみてもいかがでしょうか。



10月から3月のイベントとお知らせ

開催中～12月15日(火)
動物紹介

3月31日(水)
臨時開園

12月17日(木)～2月2日(火)
えと展開催

3月27日(土)～4月4日(日)
わんぱーくうちまつり
(チューリップ展示期間)

2月4日(木)～
動物紹介

日・祝 14:30～
ワンポイントガイド
動物の解説を飼育スタッフがおこないます

※年末年始の休園
12月28日～1月1日

詳しい日程等は、決まり次第
公式ホームページ、公式X、園内掲示などで
お知らせします。
(中止や延期がある場合があります。)

ふれあい広場開放時間

- ・10:30～12:00
- ・13:00～14:30

※ 7月～9月は、動物が暑さで弱ってしまうため
お休みしています

動物たちのエサの時間

キツネザル	10:30～
リクガメ	10:30～
チンパンジー	13:30～
フラミンゴ	14:00～
オオサンショウウオ	毎週土曜日 15:15～
アフリカコガタワニ	毎週日曜日 15:15～

(アフリカコガタワニに関しては体調によって中止になる場合があります。)

表紙「ライオンのキズナ」

2026年10月1日発行

発行・和の森わんぱーくうちアニマルランド

〒781-8010 高知市棧橋通6-9-1

TEL088-832-0189 FAX088-834-0929

Eメール kc-171204@city.kochi.lg.jp

編集 山本将充

<http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/17/1712/animal/>

アニマルランドニュース 4、10月の年2回発行
ホームページでも配信中

わんぱーくうちアニマルランド

検索

